

## 令和 8 年(第 20 回)みどりの学術賞 受賞者

いさぎ ゆうじ  
井鷲 裕司 (65 歳)

京都大学大学院農学研究科教授

功績概要：「希少植物の遺伝的解析を用いた保全生態学」に関する功績

生物多様性保全に関わる希少種の管理・保全のため、マイクロサテライトマーカーを始めとした遺伝マーカーを用いた遺伝解析や比較ゲノム解析により、希少植物の交配様式や空間的遺伝構造、遺伝子流動、保全価値評価などの研究を国内外で展開した。具体例として、小笠原諸島では、島内の著しい遺伝的分化という特異な構造や、未発見個体を特定し、南西諸島では、国内外において希少性の異なる種の比較研究により、生育分布域の端にある植物群の遺伝構造の特殊性を明らかにした。国外では、固有種の多いニューカレドニアやハワイなどでも同様に希少種保全に関わる研究を推進している。また、一連の成果を論文や書籍として発信するとともに、一般市民向けの講演を多数行うなど普及活動に加え、国の環境政策にも寄与した。これらの成果により、希少種の保全遺伝学の研究に大きく貢献した。

ひがしやま てつや  
東山 哲也 (54 歳)

東京大学大学院理学系研究科教授

功績概要：「植物の受精における花粉管誘導の分子メカニズム解明」に関する功績

被子植物の重複受精において重要な花粉管ガイダンス（誘導）の分子メカニズムを明らかにした。具体的には、顕微観察のライブイメージング技術の改良により、トレニアの雌しべの先端にある柱頭に付着した花粉から花粉管が伸長し、胚珠に届く詳細な過程の連続観察に成功し、助細胞から放出される花粉管の誘引物質とその遺伝子の性質等を明らかにした。さらに、シロイヌナズナに研究対象を拡張し、助細胞から放出される誘引物質を受容する花粉管側の受容体を発見するなど、花粉管ガイダンスの分子メカニズムを解明した。顕微観察の成果については、高校生物の教科書や科学番組等で幅広く活用されるほか、国内の関連分野の研究の興隆につながっている。これらの成果により、百数十年にわたり沈滞していた花粉管ガイダンスの研究の活性化と、植物科学の発展に大きく貢献した。

(年齢及び肩書は令和 8 年 3 月 16 日現在)